

保育目標 心身ともに健やかでいきいきとし地域の中で育つ子ども ～健康な子ども 共に育ち合う豊かな子ども 自分の思いを表現することも 感性豊かな子ども

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした 自尊感情の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員から子どもの姿の気づきをカードで集約し、月に1回周知する機会をもち、肯定的な子どもの見方を共有する。そのことで、職員も個々を大切にしたい関わりを行い子どもの自尊感情を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集約したカードを見ることで子どもを見る視点や肯定的な見方について職員（朝夕パートも含む）の意識づけとなった。後期、カード記入への偏りが見られてきた為、次年度は、写真や動画を利用し、より子どもの姿の理解や共有の仕方を工夫していく。</li> <li>・個々の姿をありのまま受け止めるということを心掛けることで、子どもに安心感や自尊感情が育まれつつある。職員間で振り返りや語り合いの時間を意識的に作っていくことがより必要である。</li> </ul>
	資質・能力を育む 保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿をもとに、気づきや発見（資質・能力）の視点で環境の再構成について話し合う場を週1回もつ。</li> <li>・環境改善が行われているかを月1回は確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの理解を深めるために写真での読み取りを担当だけでなく他学年の職員や担当と行ったことで多面的に子どもの姿を捉える機会が増えた。幼児組では話し合いの場を週に1回持つ事を心掛けた。また「保育Web」を活用したことで、遊びの振り返りや展開に気づくことができたので、語り合いや環境の再構成に活かしていきたい。</li> </ul>
	ちがいを認め合える 仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回の取り組みのテーマをもとに、子どもの姿をドキュメンテーションにし、心情面や職員の気づきを可視化して、保護者と共有する。</li> <li>・取り組みを経て子どもに変化があったなどの保護者からの連絡ノートでの返答が90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの月は、テーマをもとに子どもの姿を写真にしてドキュメンテーションに追加していくことで、担任と保護者間では、日々の変化や情報も共有できつつある。各クラス取り組みの保育内容や振り返りについて他職員との共有の仕方に改善の余地がある。</li> <li>・取り組みごとに、保護者へ投げかける内容（共有したい事）を具体的に文章化したことで返答が93%になる。引き続き、保護者との共有を心掛け子ども理解に努めたい。</li> </ul>
保育者の質の向上	職員研修・園内研修 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修での学びを可視化したり話し合ったりする場を受講後、1週間以内に設け、保育者間で共有する。</li> <li>・環境の紹介などは、写真等の視覚情報を用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修報告の時間がない時など、個々での研修の学びを写真などで可視化し職員間で共有していた。回覧での情報共有にとどまっていることがあるので学びを深める話し合いや実践につなげていくことが課題である。</li> <li>・園内研修では、多角的な助言、意見交換ができ職員の学びへつながっているのを継続していきたい。</li> </ul>
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児会議以外に、担当毎や経験年数別などの多種多様な職員構成を考え語り合いの場を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や話し合いの職員構成を見直し、少人数での話し合いにより意見交換がしやすくなった。様々な職員の考えに触れることができ保育者自身の学びに繋がっているが、語り合いでの共有の仕方に工夫が必要である。担当コーナーの子どもの様子や環境構成の意図を伝え合うなど語り合いを深められるようにしていきたい。</li> </ul>
	小学校教育との接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの取り組みを知る場を持つ。自園での取り組みが小学校以降の人権教育へとつながる事を踏まえ、子どもの姿や共有の実態の相互理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿、育ち、実態の捉え方として自園での取り組みや保育内容のドキュメンテーション、保育要録を作成し小学校との連携に努めた。</li> <li>・人権フェスティバルで「取り組み」の展示を行った。</li> <li>・四者交流研修において、子どもの実態や育ちについて情報交換を行なうとともに、「仲間づくり集会」の参加の再依頼をした。（コロナ渦緩和に伴い）</li> </ul>